

令和7年度 ユース栃木夏山報告

- 1 期日：令和7年7月30日～31日
- 2 場所：北アルプス 北穂高岳東稜・奥穂高岳
- 3 日程コース
7月29日 沢渡泊
7月30日 上高地バスターミナル（5：10発）～横尾山荘（7：45～8：00）～唐沢ヒュッテ（10：15～10：40）～東稜取付き（12：30～北穂高小屋（14：50）小屋泊
7月31日 北穂高小屋（4：30）～唐沢岳（6：10）～穂高岳山荘（6：40～6：50）～奥穂高岳（7：30～7：50）～紀美子平（9：00～9：20）～岳沢小屋（10：45～11：20）～上高地バスターミナル（12：35）下山

4 参加者（3名）

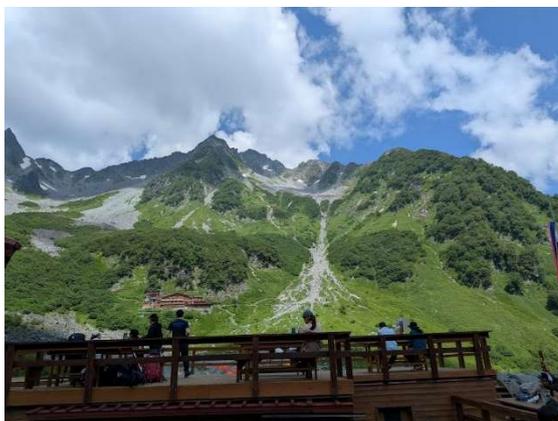
林 祐寿・深谷 篤志・荒井 理

5 行動概要

7月30日（水） 晴れ時々曇り

沢渡第二駐車場向かいにある宿に前日夜到着。この日は満室らしく窓もエアコンも無い部屋をあてがわれ、おまけに扇風機の首振り機能も壊れてうまく作動しない。沢渡とはいえ、ここのとろの暑さですすがに寝苦しかった。

3：15に起床し、部屋で軽く朝食を済ませ静かに荷物をまとめて外へ出る。しばらくして駐車場入り口に入ってきたタクシーに乗り、釜トンネル入り口でゲートが開くのを待つ。5時少し前にゲートが開くと早朝の道は当然車もない為、たちまち上高地へと到着した。登山届を提出してまずは横尾山荘へ向けて出発する。時間が早い為、河童橋にも人はまばらでそれを渡らずに先へ進む。朝日に照らされた明神岳を見ながら明神館、徳沢を通過し、横尾山荘までのなだらかな道を歩く。気温も上がり始め、登山道に入る前から結構汗をかいた。山荘手前にある山岳救助隊詰所から出てきた隊員の方に「どこを登るんですか？登山届は出しましたか？」など質問され、これからの予定などを答えた。多分、自分のザックにロープが装備されている事に気付いて話しかけてきたのだと思うと共に、この方達にお世話にならないようにしなければと気を引き締める。今日の目的地は北穂高岳ではあるが、東稜からの登頂である。人気のバリエーションルートで通称“ゴジラの背”と言われ、多くの人が目指すルートだ。横尾山荘で小休の後、横尾大橋を渡り登山道へ入る。涸沢までは道幅もあり歩きやすい道だが、平日にもかかわらずすれ違う人も多く、時折それをやり過ぎしながら進むこと約2時間、涸沢ヒュッテが見えてきた。予定ではこの後、落雷の心配があるようならここで宿泊も考えていたが、時間もまだ早く雷の心配もないとみて前進することにした。少し雲は多いが、涸沢ヒュッテのデッキからの眺めは良く、北穂東稜の荒々



【涸沢ヒュッテのデッキから北穂東稜】

しい稜線がはっきりと見る事ができた。ここからは先ず一般ルートである北穂南稜の急登を進んで行くが、日差しが強く気温も高い為、体力を奪われる。標高 2650mを超えたあたりから右へトラバース、開けたガレ場でハーネスを装着し、いよいよ東稜に取りつく。浮石が多く、落石に注意しながら登って行くと、明瞭な踏み跡のついた稜線へと出る。ゴジラのしっぽといったところだろうか。少し登ったあたりから左側がスパッと切れ落ちた岩場が続き、足場はしっかりあるが気が抜けない。そして間もなく核心部のゴジラの背に辿り着く。既に時間は午後1時を回っており、辺りにはガスがかかっていた。通常2ピッチ、ロープを使って通過しているようなので、適当なピナクルに支点を取り荒井がリードで核心を進む。途中の残置ハーケンに支点を取りながら登っていく（というより水平移動）が手・足の位置さえよく見ていけば難しくはないようだ。今回は3人なので、セカンドの深谷はアッセンダーで通過、フォロー林と無事通過することができた。その先の懸垂地点は右から巻いて回避し、小屋までの最後の登りに気合を入れる。ここもルーファイ、落石に注意が必要だ。予定時刻の午後3時前には北穂高小屋に到着。ガスの切れ間から見える東稜を眺めながらビールで本日の無事を祝った。



【北穂南稜を登り始める】



【東稜へトラバース】



【東稜を登り始める】



【ゴジラの背 1P】



【ゴジラの背を無事通過して】



【ゴジラの背 2P】



【北穂高小屋から前穂北尾根】



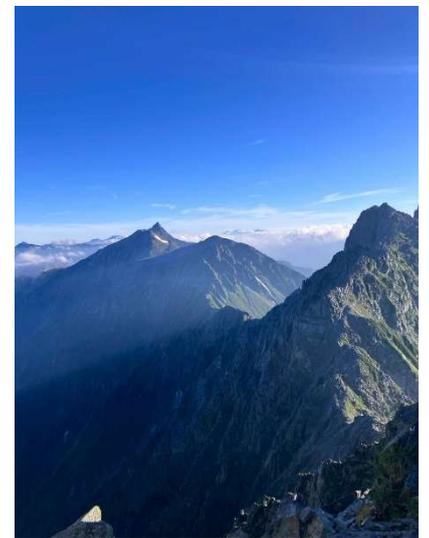
【澗沢岳への登り】

7月31日（木）晴れ

3:30に起床し、静かに寝床から荷物を持って小屋の外へ出る。この小屋は屋内に自炊場が無いので、外のテーブルで朝食の準備をする。当然まだ暗く、風もややあり結構寒い。気温は7~8℃あたりだろうか。さすが北アルプスで一番高い場所にある山小屋である。既に何人か外にいたが、4時近くなると徐々に人が増えてきた。

予定より早く準備ができたので4:30に出発。先ず北穂の山頂に立ち明くなり始めた景色を堪能する。槍までの稜線がとてもきれいに見えていた。山頂にはすでに20人ほどがいて、それぞれの時間を過ごしていた。本日の行程については実は迷っていた。昨日の疲れも考慮して南稜を下山も検討したが、天候も良く三人の体調もいいので計画通り奥穂を目指して出発することにした。北穂山頂を後にする頃にはヘルメットに装着したヘッドランプも必要ないほど明るくなってきた。唐沢岳までは大キレット同様、気の抜けない岩稜帯である。途中、槍方面に向かう数名とすれ違いながら唐沢岳を通過し穂高岳山荘へ。奥穂までは、山荘からピストンする人もいるらしく、多くの方が山頂を目指していた。奥穂山頂での天候にも恵まれ、槍までの稜線やジャンダルムなど景色も良く、やはり奥穂に来て良かったと感じた。ここからは吊り尾根・重太郎新道を經由して上高地に向けて下山を始める。途中岳沢小屋の名物カレーライスで腹を満たすと、もうそこに見える上高地に向けて一気に下った。

今回の山行ではゴジラの背の通過時間を午後にしてしまった為、疲れや天候の変化など心配要素がいくつかあったが、その分二日目も十分に北アルプスを楽しむことができた。また次回、三人での山行を楽しみにしたい。



【奥穂から槍ヶ岳】



【奥穂からジャンダルムをバックに】

文責 荒井 理